「集中力発揮、基町高ってすごい」

団体の部で中国地区準優勝

中国地区準優勝の結果に笑顔の書道部員と小波石顧問（右端）＝中区の広島市立基町高校で

基町高校2年の松尾実咲さん(17)が個人の部の大賞に選ばれた。団体の部では、松尾さんが所属する同校書道部が中国地区準優勝に決まった。書道部顧問の小波石敏彦教諭(46)は「時間をかけて粘り強く頑張ったことが評価されてうれしい。より上を目指してほしい」と話している。

参加したのは1～3年生の部員24人。同校では、1年生から古典を臨書し、筆遣いを学ぶ練習方法を取る。活動時間は、平日は放課後の2時間半～3時間、午前中に補習がある土曜日の午後も練習に充てる。小波石顧問は「手本は見せず、原本に忠実に、よく観察して書くよう指導する」と言う。

地区準優勝の結果に、部長を務める2年の八谷美笛さん(17)は「口で注意するのではなく、姿を見せるのが書道部の伝統。集中力が発揮された結果で、基町ってすごいと思った」と笑顔をはじけさせた。

大賞に輝いた松尾さんは、小学3年生で習字を始めた。中学時代は陸上部で長距離選手に。進路を悩んだが「書道はずっと残り、世代を超えて伝えていける」と高校では書道部に入った。安佐北区からバスと徒歩で2時間かけて通学する。受賞作は、唐代の書家、欧陽詢が碑に刻んだ書の臨書。松尾さんは「時間をかけて力を入れたので自信もあった。結果がついてきたので、これ以上の喜びはない」と語った。

【加藤小夜】

個人の部

松尾さんに大賞

「時間をかけて力を入れた」

松尾実咲さん

書の甲子園

「書の甲子園」として知られる「第19回国際高校生選抜書展」（毎日新聞社、毎日書道会主催）の審査結果が25日発表され、広島市立